

N E C

Express5800/100 シリーズ
ESMPRO®/AutomaticRunningController
Ver3.1

UL1046-801

セットアップカード

ごあいさつ

このたびは ESMPRO/AutomaticRunningController Ver3.1をお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。
させていただきます。

本書は、お買い上げ頂きましたセットの内容確認、セットアップの内容、注意事項を中心に構成されています。ESMPRO/AutomaticRunningController Ver3.1をお使いになる前に、必ずお読み下さい。

Windows® 2000、Windows NT®、Microsoft® は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

ESMPRO®は日本電気株式会社の登録商標です。

CLUSTERPRO™は日本電気株式会社の商標です。

Smart-UPS, PowerChute plus は、American Power Conversion Corporation の登録商標です。

目次

第1章 パッケージの中身を確認してください.....	4
第2章 セットアップの準備.....	5
2 . 1 ESMPRO/AUTOMATIC RUNNINGCONTROLLER のセットアップ環境.....	5
第3章 セットアップの方法.....	6
3 . 1 ESMPRO/AUTOMATIC RUNNINGCONTROLLER のインストール.....	6
3 . 2 ESMPRO/AUTOMATIC RUNNINGCONTROLLER のアンインストール.....	10
3 . 3 ESMPRO/AUTOMATIC RUNNINGCONTROLLER CLIENT 監視機能のインストール.....	12
3 . 4 ESMPRO/AUTOMATIC RUNNINGCONTROLLER CLIENT 監視機能のアンインストール.....	13
3 . 5 ESMPRO_AC 環境ウィザードによる設定.....	14
3 . 5 . 1 ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定.....	14
3 . 5 . 2 PowerChute plus 連携時の設定情報の削除.....	15
第4章 注意事項.....	16
4 . 1 セットアップ関連.....	16
4 . 2 運用関連.....	17
4 . 3 ESMPRO/AUTOMATIC RUNNINGCONTROLLER CLIENT 監視関連.....	18

第 1 章 パッケージの中身を確認してください

ESMPRO/AutomaticRunningController Ver3.1のパッケージの内容は、次の通りです。
まず、添付品が全部そろっているかどうか、確認して下さい。

- K e y F D 1 枚
- ソフトウェアのご使用条件 1 部
- お客様登録カード 1 部
- セットアップカード (本書)

第2章 セットアップの準備

ESMPRO/AutomaticRunningController をご使用になるためには、お手持ちのコンピュータに ESMPRO/AutomaticRunningController をセットアップしていただく必要があります。セットアップとは、Express Server Startup CD-ROM 媒体にある ESMPRO/AutomaticRunningController のプログラムを、実行できる形式にして固定ディスクにコピーすることです。セットアップの方法は、第3章で詳しく説明しています。

2.1 ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップ環境

ESMPRO/AutomaticRunningController をセットアップするためには、次の環境が必要です。

ハードウェア

<サーバ>

- ・メモリ : 2.0 MB 以上
- ・固定ディスクの空き容量 : 4.8 MB 以上

*ESMPRO/UPSControler と連携して自動運転を行う場合には、多機能UPS¹ が必要になります。

多機能UPS とサーバの接続方法や運用方法は、多機能UPS 添付の取扱説明書をご覧ください。

*PowerChute *plus* と連携して自動運転を行う場合には、SmartUPS 相当無停電電源装置² が必要になります。SmartUPS 相当無停電電源装置とサーバの接続方法や運用方法は、SmartUPS 相当無停電電源装置添付の取扱説明書をご覧ください。

<マネージャ>

- ・メモリ : 1.0 MB 以上
- ・固定ディスクの空き容量 : 1.5 MB 以上

ソフトウェア

<サーバ>

- ・OS : Microsoft Windows NT® 4.0 Server/Workstation
Windows® 2000 Advanced Server / Server / Professional

・必須ソフトウェア

[ESMPRO/UPSControler と連携による自動運転を行う場合]

: ESMPRO/UPSControler (Windows NT® 版)

[PowerChute *plus* と連携による自動運転を行う場合]

: PowerChute *plus* (Ver5.1.1J)

: UPS Sleep オプション (PowerChute *plus* 日本語版の無料オプション)

<マネージャ>

- ・OS : Microsoft Windows NT® 4.0 Server/Workstation
Windows® 95/98
Windows® 2000 Advanced Server / Server / Professional

*ESMPRO/AutomaticRunningController は、Microsoft Windows NT 4.0 Server/Workstation および Windows 95/98、Windows 2000 Advanced Server / Server / Professional 上で起動するアプリケーションソフトですので、それらのOS がセットアップされていることが必須条件になります。

また、サーバでは、ESMPRO/AutomaticRunningController は、多機能UPS を制御する場合は ESMPRO/UPSControler と連携し、SmartUPS 相当無停電電源装置を制御する場合は、PowerChute *plus* と連携するので、必ず連携を行うソフトウェアがセットアップされている必要があります。

¹ 多機能UPS (無停電電源装置) : [N8580-19, 20, 27, 28, 29, 27A, 28AC, 29AC N8542-07, 08, 07AC, 08AC]

² SmartUPS 相当無停電電源装置 : [N8580-11, 12, 13, 31 N8542-02, 03, 11]

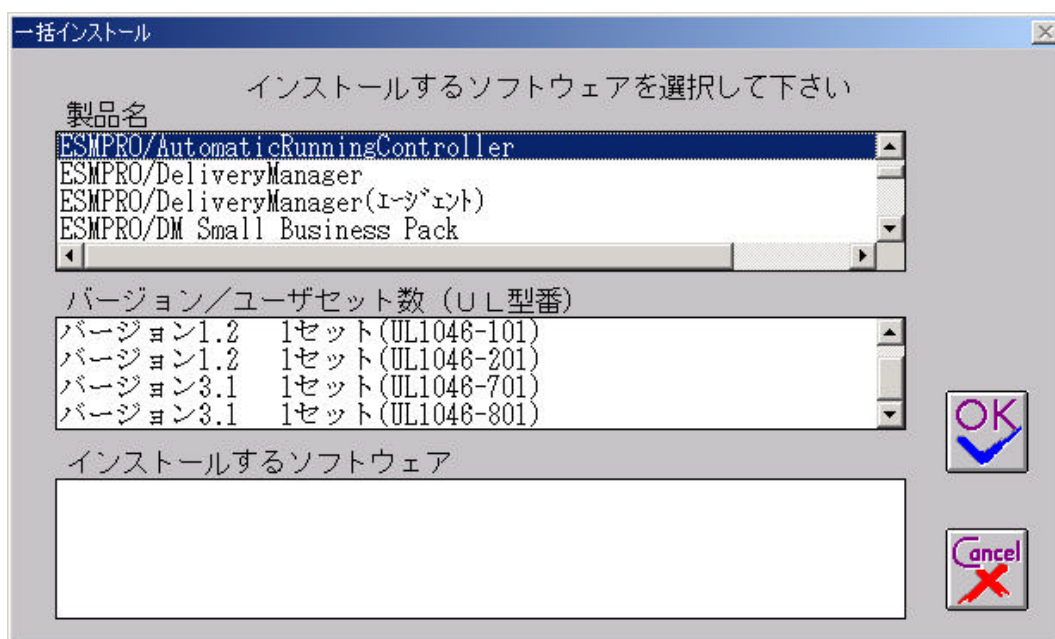
第3章 セットアップの方法

3.1 ESMPRO/AutomaticRunningController のインストール

- (1) サーバへのセットアップの場合は、ラベルに『Express Server Startup CD-ROM Express5800/100シリーズ用#1』と書かれてあるCD-ROM媒体をCD-ROMドライブに挿入し、マネージャのセットアップの場合は、ラベルに『Express Server Startup CD-ROM Express5800/100シリーズ用#2(3/3)』(RL2000/02の場合)と書かれてあるCD-ROM媒体をCD-ROMドライブに挿入します。
- (2) Express Server Startupを起動します。
(起動手順については次のセットアップカードを参照して下さい)
・Express5800シリーズ
Express Server Startup (Windows® 2000版)
- (3) 「ESMPRO/AutomaticRunningController」セットアップまでの手順

一括インストールの場合：

[Express Server Startup] から、【インストール】-【一括インストール】を選択すると次のダイアログボックスが表示されます。



- a) 「製品名」一覧から、「ESMPRO/AutomaticRunningController」を選択します。
- b) a) で選択した「製品名」のバージョン/ユーザセット数が「バージョン/ユーザセット数 (UL 型番)」に表示されますので、「バージョン3.1 1セット(UL1046-801)」を選択して下さい。
- c) b) の選択が終わりますと、「インストールするソフトウェア」に「ESMPRO/AutomaticRunningControllerバージョン3.1 (UL1046-801)」が表示されます。

ソフトウェアの選択が完了しましたら、「OK」ボタンを選んで下さい。

以降、インストール先ドライブ名の入力、KeyFDをセットしたドライブ名、氏名 / 会社名の入力をして頂きます。

(詳細については次のセットアップカードを参照して下さい)

・Express5800シリーズ

Express Server Startup(Windows® 2000版)

すべての設定が完了すると、「ソフトウェア名 ESMPRO/AutomaticRunningController Ver3.1 のKeyFDをドライブ X: にセットして下さい」と表示されます。

KeyFDをドライブ X: にセットして「OK」ボタンを選んで下さい。

「セットアップ準備中です...」というメッセージが表示され、セットアップを開始します。

((4)へ)

個別インストールの場合 :

[Express Server Startup] から、【インストール】 - 【個別インストール】を選択すると、KeyFDをセットしたドライブ名の入力要求がありますので、KeyFD をセットしたドライブ名を入力し、「OK」ボタンを選んで下さい。

「セットアップ準備中です...」というメッセージが表示され、セットアップを開始します。

(3-1) サーバへの「ESMPRO/AutomaticRunningController」のセットアップ

ESMPRO/ AutomaticRunningController のセットアップダイアログボックスが表示されます。

「続行」ボタンを選びます。

構成情報は、次のように選択します。

[ESMPRO/UPSControler と連携して多機能 UPS で自動運転を行う場合]

“UPS 使用での運用” を選択します。

[PowerChute plus と連携して SmartUPS 相当無停電電源装置で自動運転を行う場合]

“装置なしでの運用” を選択します。

「続行」ボタンを選びます。

インストール先のフォルダを入力するダイアログボックスが表示されます。

ESMPRO/ AutomaticRunningController をセットアップするドライブ、フォルダを確認します。テキストボックスにパス名を入力しなると、任意のドライブ、フォルダにセットアップすることができます。

「続行」ボタンを選びます。

インストール先のフォルダを確認するダイアログボックスが表示されます。

「続行」ボタンを選びます。

「インストール中です」というメッセージが表示されます。ダイアログボックスが画面から消えたら、セットアップの終了です。

において[PowerChute plus と連携して SmartUPS 相当無停電電源装置で自動運転を行う場合]のために“装置なしでの運用”を選択した場合は、引き続き ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定作業を実施する必要があります。「3.5.1 ESMPRO/AutomaticRunningController 動作環境の設定」の項目内容の作業を実施して下さい。

(3-2) マネージャへの「ESMPRO/AutomaticRunningController」のセットアップ

ESMPRO/AutomaticRunningController のセットアップダイアログボックスが表示されます。

「続行」ボタンを選びます。

インストール先のフォルダを入力するダイアログボックスが表示されます。

ESMPRO/AutomaticRunningController をセットアップするドライブ、フォルダを確認します。テキストボックスにパス名を入力しなると、任意のドライブ、フォルダにセットアップすることができます。

「続行」ボタンを選びます。

インストール先のフォルダを確認するダイアログボックスが表示されます。

「続行」ボタンを選びます。

「インストール中です」というメッセージが表示されます。ダイアログボックスが画面から消えたら、セットアップの終了です。

(3-3) サーバのバージョンアップセットアップ

注意：個別インストールのみで可能です。

(3-1)の の後に、サーバにセットアップされている以前のバージョンを表示したダイアログボックスが表示されます。

マイナーバージョンアップの場合は、「続行」ボタンを選びます。この場合、データの引き継いだ上書きインストールが実行され、(3-1) に続きます。

メジャーバージョンアップの場合は、旧バージョンのKeyFDが無効になってもよいか尋ねるダイアログボックスになっていますので、すでに、旧バージョンのKeyFdを返却している場合は、「はい」を選びます。この場合、データの引き継いだ上書きインストールが実行され、(3-1) に続きます。

旧バージョンのKeyFdがある場合は、「いいえ」を選びます。

データの引き継ぎを選択するダイアログボックスが表示されますので、以前にセットアップしていた情報を引き継ぐ必要が無い場合には、「いいえ」を選びます。この場合は、 に続きます。

以前にセットアップしていた情報を引き継ぐ場合には、「はい」を選びますとデータの退避が行われます。

以前のバージョンの製品名と、アンインストールを指示するダイアログボックスが表示されますので、「OK」を選択します。

インストールを中断しましたのダイアログボックスが表示されますので、「OK」を選び、一度セットアップを終了します。

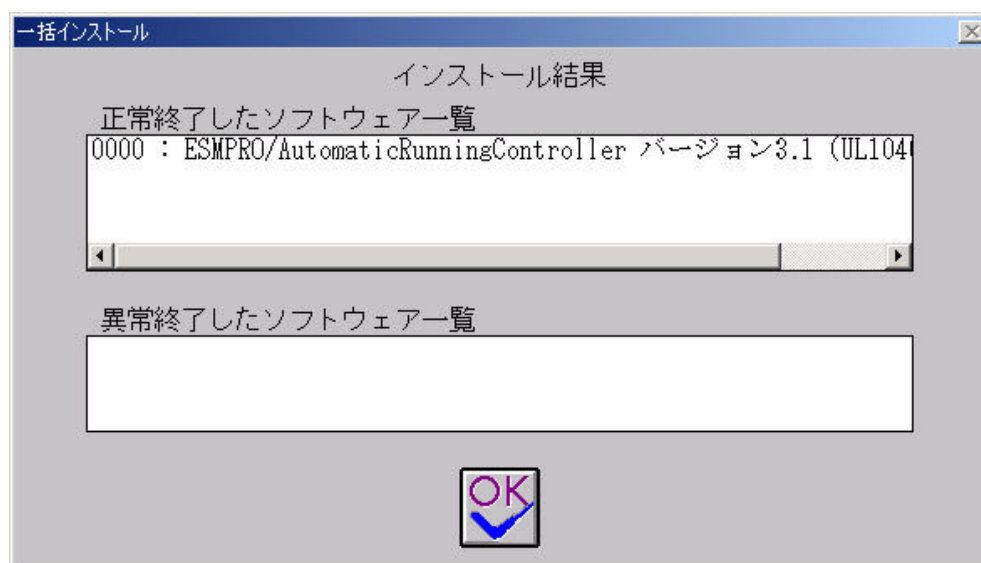
で指示されたアンインストールを実行してください。

もう一度(3)からのセットアップを実行します。

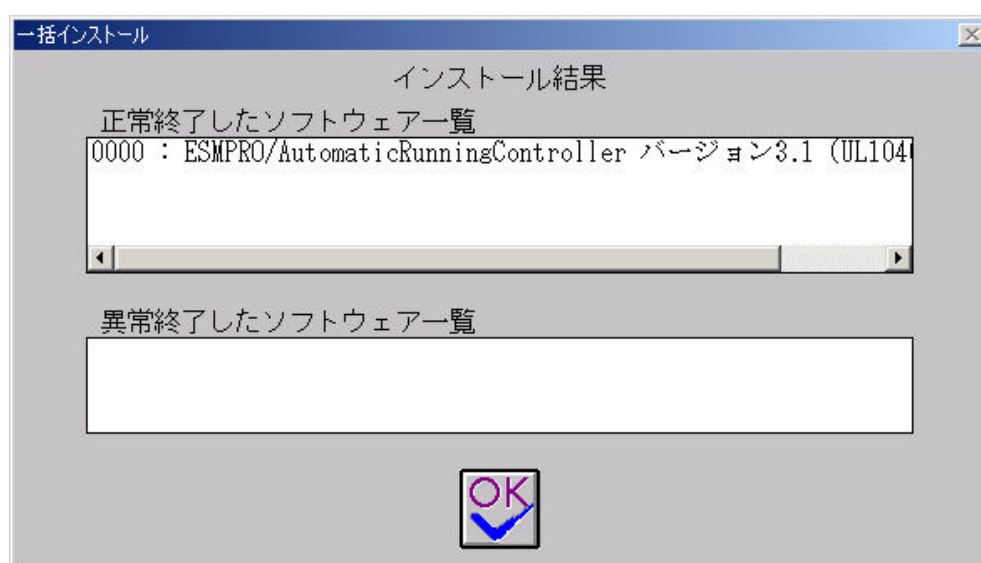
で「はい」を選択した場合は、(3-1)の作業の中で「設定情報の退避データがあります」というダイアログが表示されますので、「はい」を選んでください。以前にセットアップしていた情報を引き継いでセットアップが行われます。

- (4) 「ESMPRO/AutomaticRunningController」セットアップの終了状態表示
セットアップが終了すると次のダイアログボックスが表示されます。

一括インストールの場合：



個別インストールの場合：



注意

セットアップの実行中に<終了>及び<キャンセル>ボタンを選ぶと、セットアップを中止するかどうかをたずねるメッセージが表示されます。そのメッセージボックスで<OK>ボタンを選ぶと、セットアップを中止できます。その場合、途中までセットアップされたファイルの削除は行われません。

3.2 ESMPRO/AutomaticRunningController のアンインストール

- (1) 対象サーバに ESMPRO/AutomaticRunningController のオプション製品 ESMPRO/AC Enterprise がインストールされている場合は、ESMPRO/AC Enterprise のアンインストールを先に実行して下さい。
- (2) PowerChute *plus* と連携をして自動運転を行っている場合は、「3.5.2 PowerChute *plus* 連携時の設定情報の削除」の項目内容の作業を先に実施して下さい。
- (3) 対象サーバに CLUSTERPRO™ がインストールされている場合は、
【コントロールパネル】 【サービス】を起動して CLUSTERPRO™ のサービスを停止させて下さい。(サービス名については、CLUSTERPRO™ のマニュアルを参照して下さい)
- (4) サーバのアンインストールでは、ラベルに『Express Server Startup CD-ROM Express5800/100 シリーズ用#1』と書かれている CD-ROM 媒体を CD-ROM ドライブに挿入し、マネージャのアンインストールの場合は、ラベルに『Express Server Startup CD-ROM Express5800/100 シリーズ用#2(3/3)』(RL2000/02 の場合)と書かれている CD-ROM 媒体を CD-ROM ドライブに挿入します。
- (5) Express Server Startup を起動します。
(起動手順については次のセットアップカードを参照して下さい)
・Express5800 シリーズ
Express Server Startup (Windows® 2000 版)
- (6) 「ESMPRO/AutomaticRunningController」アンインストールまでの手順

[Express Server Startup] から【アンインストール】を選択すると次のダイアログボックスが表示されます。



- a) 「製品名」一覧から、「ESMPRO/AutomaticRunningController」を選択します。
- b) a) で選択した「製品名」のユーザセット数/バージョンが「バージョン/ユーザセット数 (UL 型番)」に表示されますので、「バージョン3.1(UL1046-801)」を選択して下さい。
- c) b) の選択が終わりますと、「アンインストールするソフトウェア」に
「ESMPRO/AutomaticRunningController バージョン3.1 (UL1046-801)」が表示されます。

ソフトウェアの選択が完了しましたら、「OK」ボタンを選んで下さい。

以降、KeyFDをセットしたドライブ名の入力をして頂きます。
(詳細については次のセットアップカードを参照して下さい)

・Express5800シリーズ

Express Server Startup(Windows® 2000版)

すべての設定が完了すると、「ソフトウェア名 ESMPRO/AutomaticRunningController Ver3.1のKeyFDをドライブ X: にセットして下さい」と表示されます。

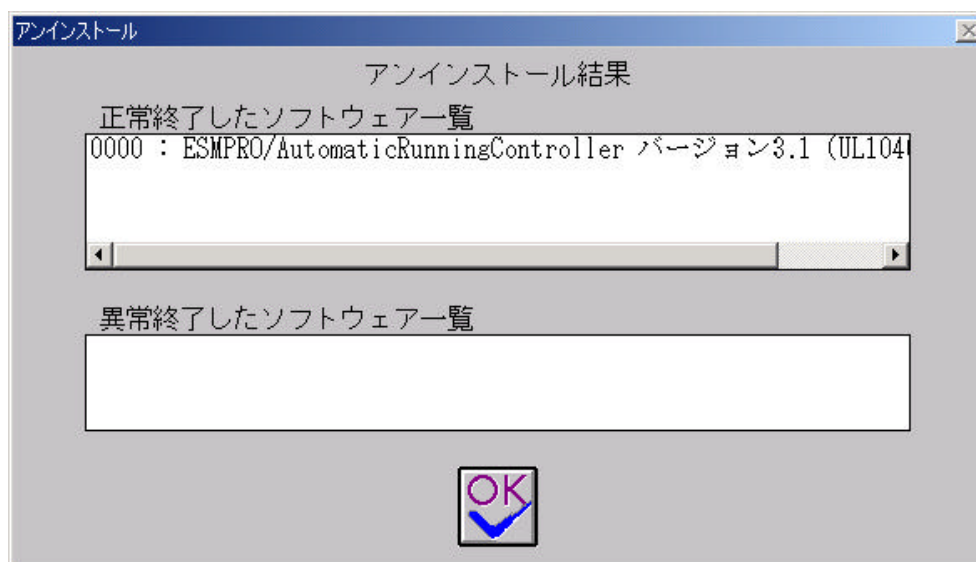
KeyFDをドライブ X:にセットして「OK」ボタンを選んで下さい。

「アンインストール中です...」というメッセージが表示され、アンインストールを開始します。

d) PowerChute *plus* と連携をして自動運転を行っていた場合は、「3.5.2 PowerChute *plus* 連携時の設定情報の削除」作業の確認メッセージが表示されます。すでに実施済みであれば、そのままアンインストールを続行してください。実施済みでない場合は、「3.5.2 PowerChute *plus* 連携時の設定情報の削除」を実施してください。

(7) 「ESMPRO/AutomaticRunningController」アンインストールの終了状態表示

アンインストールが終了すると次のダイアログボックスが表示されます。



(8) Express Server Startupを終了して、システムを再起動して下さい。

3 . 3 ESMPRO/AutomaticRunningController Client 監視機能のインストール

自動運転にて、電源の投入 / 切断監視要因として「Client 監視」を使用する場合は、サーバに本製品をインストールし「Client 監視」の設定を行った後、対象クライアントに以下の手順でセットアップしてください。但し、インストールするクライアントのOSがWindows NT®あるいは、Windows® 2000 の場合は、administrators グループに属するユーザでなければインストールできません。

尚、「Client 監視」についての説明は、マニュアルやヘルプを参照ください。

- (1) 監視対象となるクライアントにて、本製品をインストールしたサーバの共有名「CMSETUP」(サーバにインストールを行うと自動的に作成されます)に接続し、“Cmsetup.exe”を実行してください。
- (2) 「インストール」を選択後、「続行」を選択してください。
- (3) Client 監視用のモジュールをインストールするフォルダを聞いてきますので、任意のフォルダを指定してください。
特に、フォルダを指定する必要が無い場合は、そのまま「続行」を選択してください。
- (4) インストールが終了しましたら、ログオンし直してください。

3 . 4 ESMPRO/AutomaticRunningController Client 監視機能のアンインストール

本製品をアンインストールする際には、製品のアンインストールの前に、Client 監視用のモジュールをアンインストールしてください。

- (1) 監視対象となっていたクライアントにて製品をインストールしたサーバの共有名「CMSETUP」に接続し、
“Cmsetup.exe” を実行してください。
- (2) 「アンインストール」を選択後、「続行」を選択してください。

3.5 ESMPRO_AC 環境ウィザードによる設定

ESMPRO/AutomaticRunningController には、自動運転を行う動作環境を設定するための「ESMPRO_AC 環境ウィザード」があります。

「ESMPRO_AC 環境ウィザード」により、ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定を行います。

3.5.1 ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定

(1) ESMPRO/AutomaticRunningController グループの「ESMPRO_AC 環境ウィザード」アイコンを起動します。

(2) メニューの中から「環境設定ウィザード」ボタンを選択すると、環境を設定するウィザードが起動されます。

(3) 環境設定ウィザード STEP1

ESMPRO/UPSControlelr と連携して多機能UPS で自動運転を行う場合は、

“ESMPRO/UPSControlelr と連携して自動運転を行う”を選択します。

PowerChute plus と連携してSmartUPS 相当無停電電源装置で自動運転を行う場合は、

“PowerChute plus と連携して自動運転を行う”を選択します。

選択完了時は、次へボタンを選択します。

(4) 環境設定ウィザード STEP2

STEP1 で“PowerChute plus と連携して自動運転を行う”を選択した時の設定メニューであり、

PowerChute plus のユーザ通知に関する情報を設定します。

PowerChute plus でのイベント発生時(：イベントアクション)のユーザ通知機能を無効にする場合は、

“PowerChute plus のユーザ通知をなしにする”を選択します。

PowerChute plus のユーザ通知機能を現状の設定のままで自動運転を行う場合は、

“PowerChute plus のユーザ通知を残したまま、自動運転を行う”を選択します。

選択完了時は、次へボタンを選択します。

(5) 環境設定ウィザード STEP3

STEP3 までの設定内容が表示されます。

完了ボタンを選択すると、ESMPRO/AutomaticRunningController の動作環境の設定作業は終了です。

PowerChute plus 連携の場合は、連携前の設定情報が ESMPRO/AutomaticRunningController の内部情報として組み込まれ、新たに ESMPRO/AutomaticRunningController 連携の為の設定が PowerChute plus に行われます。

PowerChute plus でのイベントアクション：コマンドファイル実行機能を御使用になられていた場合には、その設定情報は ESMPRO/AutomaticRunningController 内部に取り込まれて実行されるようになります。

使用していたイベントアクションのコマンドファイルの変更や削除が必要になった場合には、「3.5.2 PowerChute plus 連携時の設定情報の削除」を行い、使用されていたイベントアクション設定を確認・変更してから、改めて本「環境設定ウィザード」にて ESMPRO/AutomaticRunningController と PowerChute plus の連携設定を行ってください。

完了ボタン選択後、ESMPRO/AutomaticRunningController サービスは ESMPRO_AC 環境設定ウィザードの設定内容に従って再起動されます。

3 . 5 . 2 PowerChute *plus* 連携時の設定情報の削除

- (1) ESMPRO/AutomaticRunningController グループの「ESMPRO_AC 環境設定ウィザード」アイコンを起動します。
- (2) メニューの中から「設定情報を元に戻す」ボタンを選択すると、PowerChute *plus* に設定されていた ESMPRO/AutomaticRunningController 連携の設定情報が削除され、連携前の設定に戻ります。

第4章 注意事項

ESMPRO/AutomaticRunningController のご使用にあたり、次の点にご注意ください。

4.1 セットアップ関連

- (1) 多機能UPS を自動電源制御装置として使用する為には、以下の「ESMPRO/UPSController」が必要ですので「ESMPRO/UPSController」のインストールを先に行ってください。

- ・ESMPRO/UPSController Ver2.0 以降推奨
(ESMPRO/UPSController Ver1.2 以降)
(ESMPRO/UPSController Ver1.0 + ESS RL97/09 以降の修正情報(RUR)の適用)
(ESMPRO/UPSController Ver1.1 + ESS RL97/09 以降の修正情報(RUR)の適用)

- (2) SmartUPS 相当無停電電源装置を自動電源制御装置として使用する為には、「PowerChute *plus* (Ver5.1.1J 以降)」とそのUPSSleep オプションが必要ですので、PowerChute *plus*とUPSSleep オプションのインストールを先に行ってください。

- (3) PowerChute *plus* (Ver5.1.1J 以降) をインストールする時は、必ず UPSSleep オプション (日本語版の無料オプション) もインストールしてください。
UPSSleep オプションがインストールされていない場合、ESMPRO/AutomaticRunningController のPowerChute *plus*連携による自動運転は正常に実施されません。

- (4) 「3.5.1 ESMPRO/AutomaticRunningController 動作環境の設定」の項目内容の作業を実施後、UPSSleep オプションをインストールした場合、PowerChute *plus* からESMPRO/AutomaticRunningController の設定情報がすべてなくなります。
そのため、後からUPSSleep オプションをインストールした場合は、再度「3.5.1 ESMPRO/AutomaticRunningController 動作環境の設定」の項目内容の作業が必要になります。

- (5) ESMPRO/ServerManager の統合ビューアから、ESMPRO/AutomaticRunningController ユーザインターフェイスを起動する場合は、「ESMPRO/ServerManager」ソフトウェアが必要です。
またこの場合、「ESMPRO/ServerManager」を先にインストールしてください。

4.2 運用関連

- (1) サーバとしてWindows® 2000 をご使用になる場合、コントロールパネルの「電源オプション」機能の「休止状態のサポート」はOFF（初期状態）にしてください。

Windows® 2000 の「休止状態」になった場合、ESMPRO/AutomaticRunningController によるサーバの自動運転は、制御不能になります。

- (2) 多機能UPSをご使用の場合は、自動運転実行中はAUTO/LOCALスイッチは必ずAUTOの状態でご使用ください。

- (3) 自動電源制御を行っている際は、サーバ本体のパワースイッチを使用して電源を切断しないでください。もしサーバ本体のパワースイッチにより電源切断を実行した場合、次回の電源自動投入は行われません。

手動により電源投入・切断を行う場合は、多機能UPSのAUTO/LOCALスイッチと、ON/OFFスイッチを使用するか、GUIによるシャットダウンかシャットダウンアイコンを使用してください。（SmartUPSをご使用の場合は、ON/テストボタン で電源投入を行ってください。なお、SmartUPSのOFFボタン を押すと、シャットダウンが行われずにそのまま電源が切断されますので、ご注意ください。）

本体サーバのOSストール等が発生し多機能UPSのAUTO/LOCALスイッチやON/OFFスイッチに反応しない場合は、サーバのリセットスイッチにより復旧させるか、あるいは以下の手順で多機能UPSのUPS ENABLEスイッチを操作してください。

多機能UPSのUPS ENABLE を OFF にします。

（ここで本体サーバの電源が切断されます。）

多機能UPSのAUTO/LOCALスイッチをLOCAL にします。

多機能UPSのUPS ENABLE を ON にします。

多機能UPSのON/OFFスイッチを1秒程度押下します。

（ここで本体サーバの電源が投入されます。）

多機能UPSのAUTO/LOCALスイッチを AUTO にします。

SmartUPS相当無停電電源装置をご使用の際に本体サーバのOSストール等が発生した場合は、以下の手順で行ってください。

SmartUPSのOFFボタンを押します。（ここで、本体サーバの電源がOFFされます。）

SmartUPSのON/テストボタンを押します。（ここで、本体サーバの電源が投入されます。）

- (4) ESMPRO/AutomaticRunningController ユーザインターフェイスで行う操作は、Administratorsグループに所属しているユーザでのみ行うことができます。

- (5) スケジュール作成でワイルドカードを使用した毎日設定を行う場合、あるいは、曜日指定で一週間の連続運転を設定する場合には、通常指定は運転休止にする事を推奨します。

ESMPRO/AutomaticRunningController グループの「ESMPRO_AC ヘルプ」アイコンで表示されるヘルプ情報の「ご使用にあたってのご注意」もご覧ください。

4.3 ESMPRO/AutomaticRunningController Client監視関連

- (1) Client 監視対象クライアントへの Client 監視機能のインストール・アンインストールは、同一ユーザで行ってください。
- (2) ファミリログオン機能を使用する場合には下記事項にご注意ください。（Windows® 95/98 をご使用になられる場合の注意）

ファミリログオン機能の設定によっては、ユーザが個別にスタートメニューを持っている場合があります。

そのユーザで Client 監視機能をインストールすると、そのユーザでのみ Client 監視機能が使用可能になります。

個別のスタートメニューを持っていないユーザで Client 監視機能をインストールした場合は、個別のスタートメニューを持っていない全ユーザで、Client 監視機能が使用できます。

個別にスタートメニューを持っている複数のユーザで Client 監視機能を使用する場合は、そのユーザ毎にインストールを行ってください。

（2回目以降は上書きインストールになります。）

個別にスタートメニューを持っていない全てのユーザと、個別にスタートメニューを持っている任意のユーザで、Client 監視機能を使用する場合は、個別にスタートメニューを持っていない1ユーザと、個別にスタートメニューを持っている任意のユーザで、インストールを行ってください。（2回目以降は上書きインストールになります。）

複数のユーザでインストールを行った後、アンインストールする場合は、インストールを行ったどれかのユーザでアンインストールしてください。その場合、他のインストールを行ったユーザのスタートアップに"ESMPRO_AC Client"ショートカットが残ってしまいます。設定の「タスクバーとスタートメニュー」の中の、「[スタート]メニューの設定」の削除にて、スタートアップに登録されている"ESMPRO_AC Client"のショートカットを個別に削除してください。

個別にスタートメニューを持っていないユーザが複数存在するような環境で、ユーザ毎にインストールを行うなどの操作を行った場合、エクスプローラがエラーになったり、インストーラがストール状態になることがあります。そのような場合は、以下の手順を行ってください。

- 1) CTRL+ALT+DEL キーを押して「プログラムの強制終了」ダイアログを起動します。
- 2) 「ESMPRO/AutomaticRunningController Client 監視機能セットアップ」を選択し、「終了」を実行します。
- 3) もう一度 CTRL+ALT+DEL キーを押して「プログラムの強制終了」ダイアログを起動します。
- 4) 「ESMPRO/AutomaticRunningController Client 監視機能セットアップ」が残っていないか確認してください。もし残っている場合には、2)と同様に無くなるまで「終了」させてください。
- 5) システムを再起動してください。